

森林へ行こう！

# 島根県の名山 36選

## はじめに

「森林（もり）へ行こう!!」は、島根県森林・林業総合情報誌「しまねの森林（もり）」の一つのコーナーとして掲載したものです。

趣味の山歩きをベースとした記事をきっかけとして、読者の方に森林に興味をもってもらいたいとの思いで、コーナーをスタートしました。

結果、平成18年から平成29年の12年の間に、県内40の山々を取り上げています。

書店等で目にされる登山ガイドブックには、あまり記載のない山の歴史や文化などをできるだけ盛り込んで、島根県の都市部から中山間地域、離島にかけての山々を親しんでいただけるように、内容を充実させてきました。

今回、「第71回全国植樹祭島根県大会」が、「森林（もり）へ行こう!!」でも紹介した大田市の三瓶山（北の原）で令和3年5月30日に開催されるにあたり、「森林（もり）へ行こう!!」の36編の記事を一つに編集していただくことになり、つたない記事を編集してきた者としては身に余る思いで、関係者の皆様に感謝申し上げる次第です。

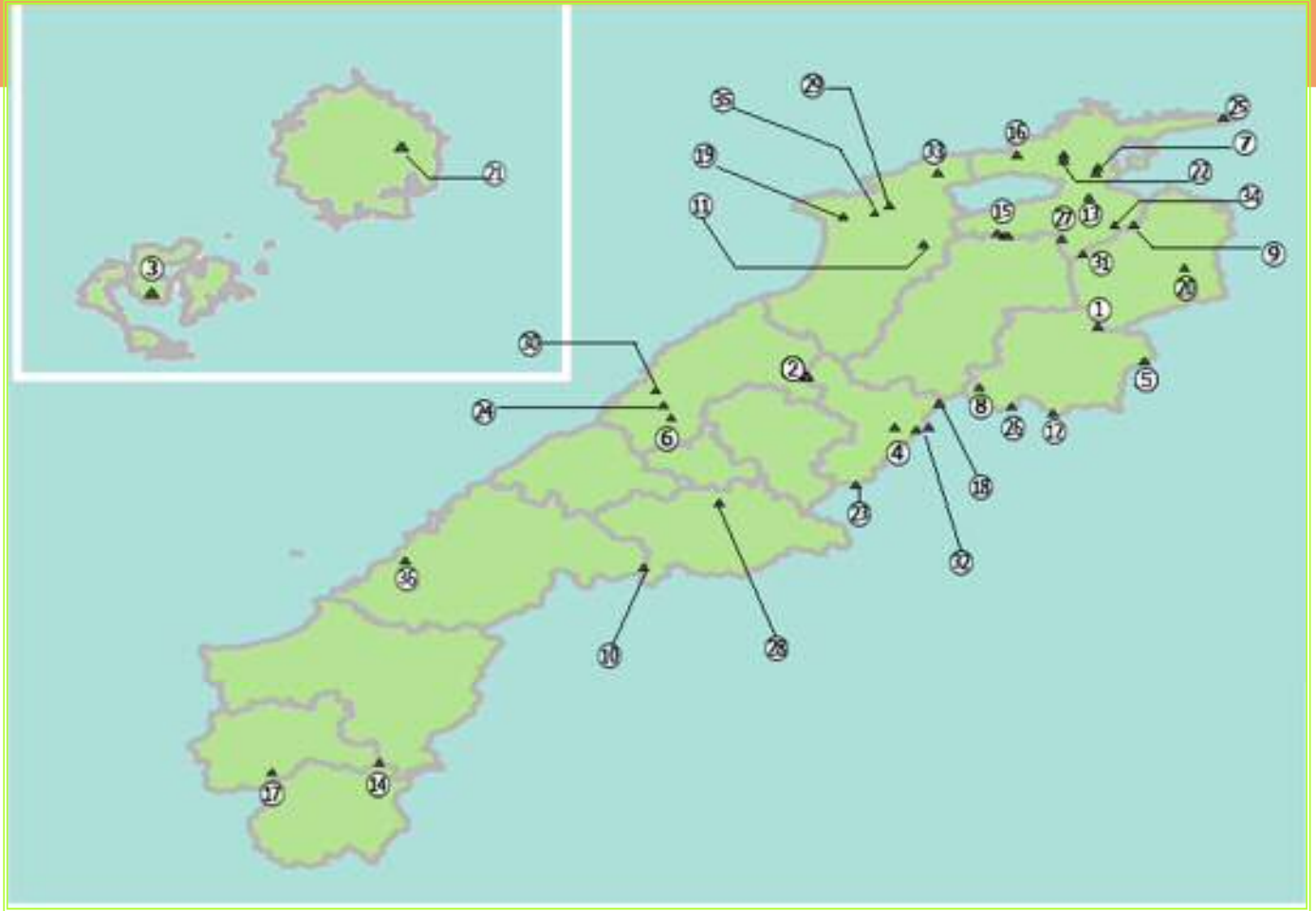
「森林（もり）へ行こう!!」に取り上げた山々は、何れも私自身が歩いて状況は見てきていますが、編集してから年数の古い記事もありますので、登山にあたっては、道迷いなどの無いように最新の登山ガイドブックなどを参考にさせていただくようお願いします。

令和3年3月吉日

内藤 暢文（現所属：島根県東部農林振興センター）



# 森林へ行こう！目次



地図番号	山の名称	頁	地図番号	山の名称	頁
①	玉峰山（たまみねさん）	1	⑳	比婆山（ひばやま）	2 0
②	三瓶山（さんべさん）	2	㉑	大満寺山（だいまんじさん）	2 1
③	焼火山（たくひさん）	3	㉒	真山・白鹿山 （しんやま・しらがやま）	2 2
④	琴引山（ことびきやま）	4	㉓	女亀山（めんがめやま）	2 3
⑤	船通山（せんつうざん）	5	㉔	矢滝城山（やたきじょうざん）	2 4
⑥	大江高山（おおえたかやま）	6	㉕	馬着山（ばちやくさん）	2 5
⑦	嵩山・和久羅山（だけさん・わくらやま）	7	㉖	猿政山（さるまさやま）	2 6
⑧	鯛ノ巣山（たいのすやま）	8	㉗	八雲山（やくもやま）	2 7
⑨	京羅木山（きょうらぎさん）	9	㉘	冠山【石見冠山】 （かんざん、いわみかんざん）	2 8
⑩	丸瀬山（まるせやま）	1 0	㉙	旅伏山（たぶしさん）	2 9
⑪	仏経山（ぶつきょうざん）	1 1	㉚	馬路高山（まじたかやま）	3 0
⑫	吾妻山（あづまやま）	1 2	㉛	天狗山（てんぐやま）	3 1
⑬	茶臼山（ちやうすやま）	1 3	㉜	指谷山・指谷奥 （ゆびたにやま・ゆびたにおく）	3 2
⑭	安蔵寺山（あぞうじさん）	1 4	㉝	大船山（おおふなやま）	3 3
⑮	馬鞍山・大平山・八重山 （まくらやま・おおひらやま・はちじゅうざん）	1 5	㉞	星上山（ほしかみやま）	3 4
⑯	朝日山（あさひさん）	1 6	㉟	鼻高山（はなたかせん）	3 5
⑰	青野山（あおのやま）	1 7	㊱	大麻山（たいまさん）	3 6
⑱	大万木山（おおよろぎさん）	1 8			
⑲	弥山（みせん）	1 9			

# 森林へ行こう! vol. 1

## たまみねさん 玉峰山

●奥出雲町／標高: 820.3m

玉峰山は、安来市と奥出雲町の境に位置し、森林公園としてキャンプ場や遊歩道も整備されており、ふもとには「<sup>かめだけ</sup>亀嵩温泉・玉峰山荘」もあり、御家族連れで楽しめる森林です。

この山の名の由来は、出雲風土記に「山の峰に玉作りし社が、あつたので玉峰と云」と記されており、神話によると「イザナミノミコト」により日本で初めて樹木が植えられた植林発祥の山とされています。また現在は、林野庁の「水源の森百選」にも認定されています。国道432号線の登山口標識から約1.5kmほど車で走ると森林公園の駐車場があります。この登山口から「雄滝ルート」を登ると休憩しながら約1時間ほどで山頂です。途中には「雄滝」や、「小窓岩」と呼ばれる岩のトンネルなどがあり、山頂からは、遠く三瓶山や大山、近くには大万木山など360度のパノラマを楽しむことができます。



玉峰山荘から望む玉峰山



案内看板

登山ルートはこのほかに「玉峰山荘」からの「遊歩道ルート」もあります。また、途中の脇道には「コウモリ岩」、「かざし岩」、「糸滝」、「雌滝」など自然の造形も豊富です。



# 森林へ行こう! vol. 2

## さんべさん 三瓶山

●大田市／標高:1,126m(男三瓶)

三瓶山は、島根県のほぼ中央に位置するトロイデ型の火山で、その美しい景観などから大山隠岐国立公園の一部に指定されています。

火口にあたる<sup>むろ</sup>室の内の<sup>うち</sup>周辺に、<sup>おさんべ</sup>男三瓶、<sup>めさんべ</sup>女三瓶、子三瓶、孫三瓶の4つの峰が連なり、その裾野には西の原、東の原などの広大な草原も展開して、伝説の<sup>うきぬのいけ</sup>浮布池や浮島のある<sup>ひめのがいけ</sup>姫逃池などとともに、特色のある景観を見せています。

また、国民保養温泉地に指定されている三瓶温泉も国立公園の区域内にあって、周遊道路や遊歩道、キャンプ場などの施設も整っており、春の新緑、夏の登山・キャンプ、秋の紅葉狩り、冬のスキーと四季を通じた野外レクリエーションの場となっています。

北の原にあり、三瓶山や島根の自然を紹介する「島根県立三瓶自然館サヒメル」では、「森のしくみ」などのテーマで自然・環境講座や各種ツアーが年間を通じて開催されています。

なお、三瓶自然館周辺には、森林を散策するモデルコース「自然林探勝コース」などもありますので、新緑の季節には御家族連れで<sup>もり</sup>森林を堪能してみたいはいかがでしょうか。



浮布池と男三瓶 (左)・子三瓶 (右)



# 森林へ行こう！ vol. 3

## たくひさん 焼火山

●西ノ島町／標高：452m

隠岐島前の3つの島(西ノ島、中ノ島、知夫里島)は、隠岐島前火山の外輪山(カルデラ)の一部とされています。この火山活動は、約600万年前に始まり、外輪山(カルデラ)が形成された後、約550～500万年前にカルデラ内で噴火が起き、この時に放出された火砕物が堆積して中央火口丘(焼火山)ができたものと言われています。

焼火山の中腹にある焼火神社は、平安時代に創設され、岩穴の中からせり出すような社殿が特徴的で、国の重要文化財にも指定されており、古くから日本海の船人に海上安全の神としてあがめられ



案内看板

ています。

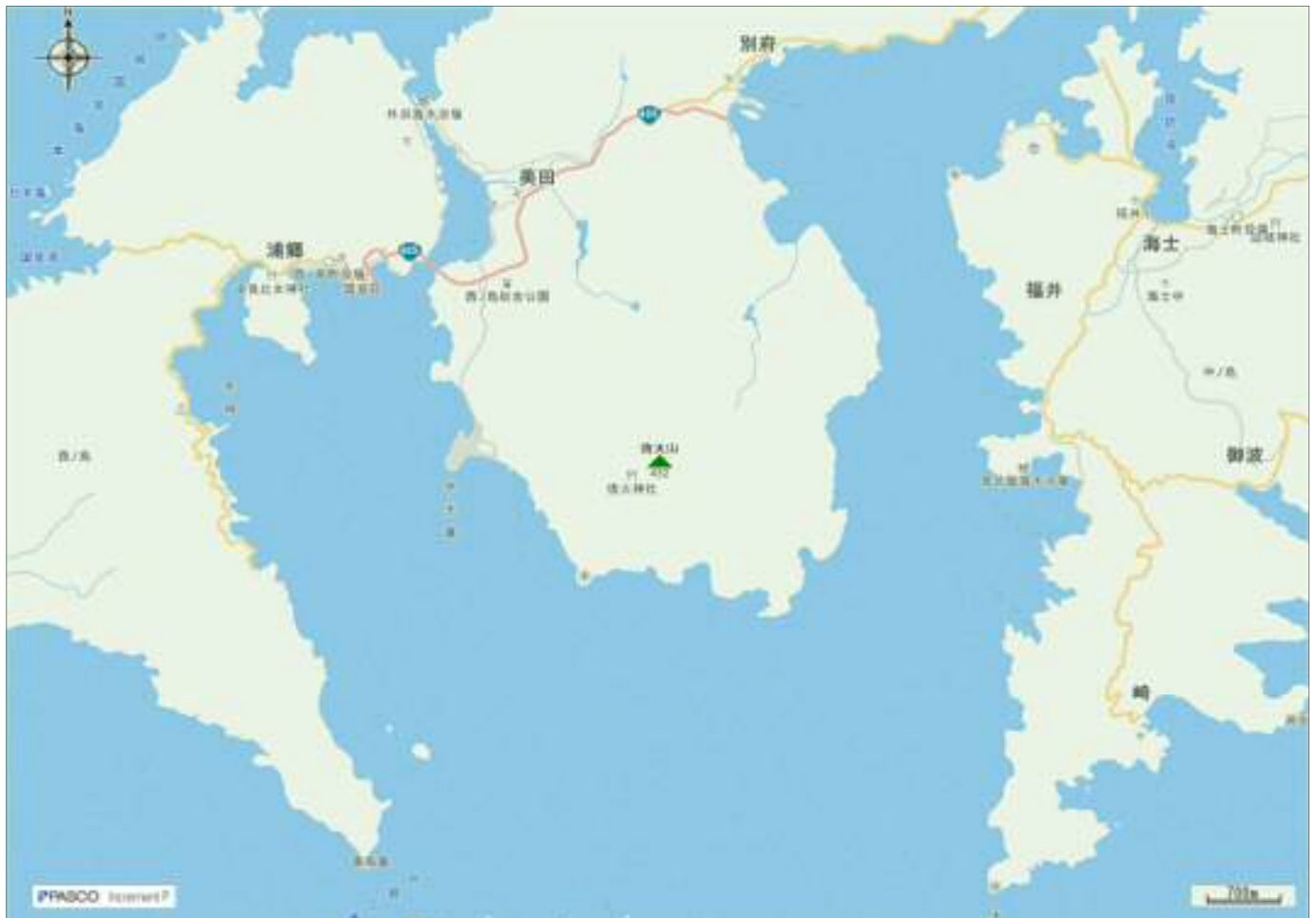
山頂付近は、「焼火

山神域植物群」として、県の天然記念物に指定されており、岩肌に着生するセッコク、フウランなどの着生ランなどの数々の珍しい植物群を見ることができます。

また、国の天然記念物に指定され、島根県では隠岐だけに生息するカラスバトをはじめとして数多くの野鳥が生息しています。

太古の火山活動と江戸時代の北前船の往来に思いを馳せ、隠岐の森を散策してみたいはかがでしょうか。

隠岐汽船のフェリーから望む焼火山



# 森林へ行こう! vol. 4

## こと びき やま 琴 引 山

●飯南町／標高:1,014m

琴引山の山頂直下には、出雲神話で有名な「<sup>おおくにぬしのみこと</sup>大国主命」  
をお祀りする「<sup>ことびきやま</sup>琴弾山神社」があります。

「出雲風土記」には、「この山の峰に岩窟あり、その中に  
大国主命の御琴あり・・・よって琴引山という」と記述されて  
おり、「大国主命」が山腹の祠に住み、琴を弾じて、政務を  
司られたという神話の山で、かつてはこの山頂付近に42坊  
の寺院があつて修験場となっていたとも言われています。

松江市宍道町から国道54号線(出雲神話街道)を広島  
方面に向かって約1時間ほど車を走らせると、琴引フォレス



南方向から遠望した琴引山



案内看板

トパークスキー場  
の看板があります。

このスキー場が登山口となっており、レストハウスの近くに案内看板も設置されていま  
す。

登山口から約1時間、途中に「弦の清水」、「琴弾山神社」を過ぎて山頂へ至ります。  
山頂からは三瓶山や日本海、天気が良ければ隠岐の島まで展望でき、「大国主命」  
の国造り構想がこの山で練られたという雄大な神話のロマンを感じることができます。



# 森林へ行こう! vol. 5

## せん とう ざん 船 通 山

●奥出雲町／標高: 1, 143m



八岐大蛇の出現を連想させる雲間の船通山

船通山は、鳥取県(日南町)との県境に位置し、宍道湖から中海を経て日本海へ注ぐ一級河川、斐伊川源流の森林を育む山です。

古くは、「鳥髪<sup>とりかみ</sup>の峰」と呼ばれ、有名な神話「八岐大蛇退治<sup>やまたのおろち</sup>」では、高天原<sup>たかまがはら</sup>からこの地に降臨したサノオノミコトが、この山に棲む八岐大蛇を退治して、クシナダヒメを助け、退治した大蛇の尾から取り出した剣をアマテラスオオミカミに献上したことが伝えられています。この剣が、「三種の神器」の一つ「天叢雲劍<sup>あめのむらくものつるぎ</sup>」で、船通山の頂上にはその出顕地の碑が建てられています。

登山路は、いくつかありますが日本三大美肌湯温泉

の「ヴィラ船通山・斐乃上荘」から、周回可能な鳥上滝コースと亀石コースが一般的です。何れも片道1時間30分程度の行程です。

山頂からは、360度の展望が開け、大山<sup>だいせん</sup>、三瓶山<sup>さんべさん</sup>、吾妻山<sup>あずまやま</sup>などが一望でき、春にはカタクリの花が美しく咲きます。また、山頂から南の鳥取県側には樹齢1000年以上と言われ、国の天然記念物ともなっているイチイ(イチイ科の常緑針葉樹)の巨木があります。紅葉の季節、神話の山でリフレッシュしてみませんか。



頂上に建つ「天叢雲劍」出顕地の碑





# 森林へ行こう! vol. 6

## おお え たか やま 大江高山

●大田市／標高:808m

島根県の中央部、大田市大代町の大江高山は、“世界遺産・石見銀山遺跡”のコアゾーンに位置する仙ノ山(537m)、矢滝城山(634m)などととも、“大江高山火山群”として総称されています。

この火山群は、200万年前頃から100万年前頃にかけて溶岩を噴出し、最高峰の大江高山(808m)をはじめとするいくつかの溶岩円頂丘(トロイデ型火山)を形成したものとされています。そして、この火山活動に伴って大江高山の北に位置する仙ノ山は熱水性鉱床を140万年前頃に<sup>はいたい</sup>胚胎し、この銀鉱床が16世紀初頭から約400年間にわたって採掘された石見銀山で、先頃、アジアでは初の産業遺産として世界遺産に登録されたものです。



大代小学校付近から望む大江高山  
(前方は山田側山頂、後方が飯谷側山頂)



大江高山からの眺望(北方向)

大江高山火山群の主峰、大江高山には、主要地方道大田桜江線から通じる“穏やかな山田コース”と“急峻な飯谷コース”の2つの登山コースがあります。山田コースから山田側山頂(779m)へは約50分、尾根沿いに約40分で飯谷側山頂(808m)へ至ります。飯谷側山頂からの眺望はすばらしく、北方向にこの火山群を形成する山々と間近に迫る日本海、さらに島根半島の日御碕灯台、北東方向には三瓶山の全容を望むことができます。

大江高山は、石見銀山を形成した火山群の主峰であり、太古の火山活動に思いを馳せて訪れたい石見の秀峰です。



# 森林へ行こう! vol. 7

## だけさん わくらのやま 嵩山・和久羅山

●松江市／326m(嵩山)262m(和久羅山)

県都松江市の代表的な山である嵩山と和久羅山は、市街地のある西側から見ると和久羅山が頭部、嵩山が胴体の涅槃仏のようにも見えますが、その女性的なシルエットから、戦前は学生から「メツェン山」と呼ばれ親しまれてきました。(メツェンとはドイツ語で若い女性の意味)

嵩山は、出雲国風土記に「布自伎美嵩山」とあり、山頂にはスサノオノミコトの御子、ツルギヒコノミコトをまつる布自伎美神社が鎮座し、戦の神様であったことから、かつては武人の崇敬を集めていたということです。この山頂には、風土記に烽(狼煙をあげる施設)があったことも記されており、古代からその眺望は活かされてきました。現在は、登山道も整備されており、山腹の駐車場からは歩いて30分程度です。



松江城から望む嵩山(左側)と和久羅山(右側)



嵩山の山頂から望む中海と大根島

和久羅山は、風土記に「女岳山」とあり、嵩山を男性に見立てて、それに寄り添う女性に見立てられていたようです。戦国時代には毛利氏と対峙した尼子氏の家臣の居城となっていたとのことで、登山道は比較的急峻ですが、駐車場から20分程度で山頂の広場に至ります。

実はこの嵩山と和久羅山も600万年前に噴出した溶岩ドーム(溶岩円頂丘)で、山頂から望む大根島や江島も20万年前の火山です。市内の松江しんじ湖温泉や玉湯温泉もこのような火山活動と無縁ではないようです。嵩山と和久羅山は、松江市周辺からは気軽に訪れることができるとても身近な森林です。



●奥出雲町／標高:1026.4m



阿井盆地から望む鯛の巢山

中国山地に位置し、海から遠く離れているにもかかわらず、山名に海の魚の名を冠しているのは珍しく、仁多郡誌には「西山の中腹に於て馭馬が荷物の交換をなし鯛の荷沢山集まりし事あり依って鯛集山の称起れり」と記述されていますが、山名の由来には諸説があつて定かではありません。

出雲国風土記には、「志努坂野。郡家の西南三十一里なり。紫草少しくあり。」と記されており、古代の山容は現在とずいぶん違うようです。現在はブナの二次林とスギの人工林など森林に覆われていますが、古代では樹木が少なく、小笹や、根から染料が取れる紫草に覆われていたため、野と言ったものと思われます。

鯛ノ巢山の登山には、奥出雲町三成から国道432号線を車で南進して、上阿井の福原農道沿いに整備された駐車場を利用します。農道沿いに少し離れた案内板から向かって右側の登山ルートで山頂までおよそ100分ほどです。途中、三合目の水場を経て、六合目のコウモリ岩と呼ばれる巨石が迫ってきます。ここはイザナミノミコトが難産で七日七夜籠もったところ(こもり岩)との伝承もあります。六合目あたりから少し陰しくなりますが、やがてブナの木が増えて山頂へ至ります。山頂からは阿井盆地を眼下に、遠く宍道湖や島根半島を望むことができます。この山頂から南に300m程行くと岩場があり、猿政山、毛無山、大万木山などの山々を望むこともできます。山名の由来や伝承に思いをめぐらせて、山や森林を歩くのも、山や森林の楽しみ方の一つです。



農道沿い登山口の案内板



●東出雲町／標高: 473m



月山富田城二ノ丸から望む京羅木山

京羅木山は、東出雲町と安来市広瀬町の境に位置し、中海・宍道湖や鳥取県の大山、眼下に能義平野を望む好眺望の山です。

出雲国風土記では「高野山」の記述があり、この京羅木山とする説と、東出雲町と松江市八雲町の境に位置する星上山(458m)とする説があります。また、京羅木の語源には「清木」、「京萩」など諸説があるようです。

戦国時代には、尼子氏の居城月山富田城を攻略するため、はじめ大内・毛利連合軍が本陣を置き、後には毛利軍が尼子氏攻略の足がかりとしたところで、ふもとは三矢の教えで有名な毛利元就が戦勝を祈願して建立したと伝えられる出雲金刀比羅宮もあります。

出雲金刀比羅宮の現在の社殿は、明治12年に建て替えられたもので、この社殿を右に進むと登山道への表示板があります。山頂まで約1.8kmの登山道には、案内板や樹木の名札などもあり、ハイキングコースとして整備されています。また途中には山伏塚があり、平安時代末期の山岳信仰の修行の場であったこともうかがえます。

頂上からは、南東側の眼下に月山と広瀬の街を見下ろすことができ、尼子氏攻略にこの地が選ばれた理由が推察されます。また、ここには平和観音像も建てられ、ベンチも並んでいます。この山をよく訪れる知人から、「自分の先祖が暮らしてきた能義平野をこの山頂から眼下に望むととても感慨深い」という言葉を伺いましたが、皆さんも住んでいる地域をそれぞれの地域の山から眺望してみると意外な発見があるかもしれません。



山頂から望む月山(中央)



●浜田市・邑南町／標高:1,021m



原山トンネル付近から望む丸瀬山（中央）と阿佐山塊

丸瀬山は、島根県と広島県の県境に連なる西中国山地国定公園東端の阿佐山塊の一部で、浜田市と邑南町の境に位置する山です。往時にはこの山塊全体を丸瀬山と呼んでいたとも伝えられています。丸瀬山山頂の北には、巨石が並ぶトビ岩(986.5m)があり、ここを丸瀬山山頂として記述されることもあります。

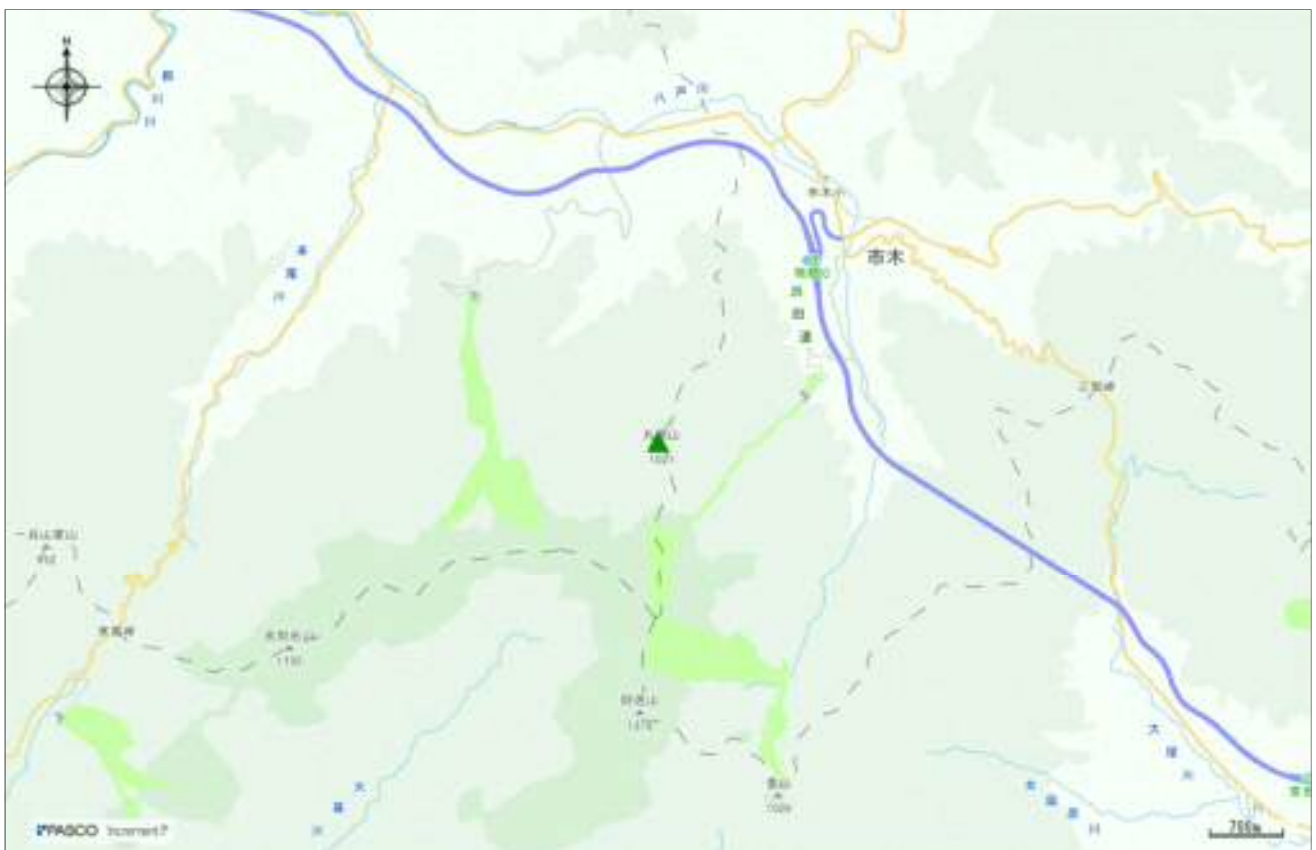
阿佐山塊には、この丸瀬山のほか、主峰の阿佐山(1,218.2m)や三ツ石山(1,163.4m)、天狗石山(1,191.8m)など県境に1,000m級の峰々が連なっており、登山者には縦走も楽しまれています。そして、阿佐山北峰(1,210m)の瑞穂ハイランドスキー場のほか、三ツ石山のアサヒテングストーンスキー場など島根、広島両県にスキー場があり、ウインタースポーツの一大拠点となっています。

丸瀬山への登山ルートは、邑南町市木の瑞穂ハイランドスキー場のハイランドサイド駐車場付近からとなります。ゲレンデ(チェスナットコース:2,600m)を登っていくと丸瀬山への尾根の取り付きにスキー場施設の建物があり、そこから尾根筋のブナの大木へ向けてクマザサの中を進むと、ブナ、ミズナラ、クリなどの木々に包まれて行きます。そのまま緩やかな尾根を進むと山頂です。山頂には木製の標識が掲げられているだけで、樹木に遮られて見晴らしは良くありませんが、ここから標識に従って570mで好眺望のトビ岩に至ります。(所要時間:約2時間、登山シーズン:4月~11月)

丸瀬山を含む西中国山地は、ツキノワグマの生息地です。鈴を鳴らして歩くなどの用心が必要ですが、浜田市と邑南町両方の市木小学校の校歌にも歌われているようにもっと親しんでほしい秀峰です。



トビ岩から望む丸瀬山山頂（手前）とスキー場のある阿佐山北峰（後方）



●斐川町／標高:366m



仏經山と斐川平野

出雲国風土記には、入海(宍道湖)を囲む4つのかんなび山(茶臼山、朝日山、仏經山、大船山)が登場します。「かんなび」とは、「神の隠れこもる」という意味で、かんなび山(神名火山・神名樋山)は、信仰の対象として崇められた特別の山を示しているものと考えられています。

現在、仏經山のみもとにある曾根能夜神社は、この地方(キヒサの里)の守り神である伎比佐加美高日子命をまつる神社で、出雲国風土記によれば、かつて山頂にあったようです。

仏經山の北東約2.8kmには、358本の銅剣などが出土し日本史を覆す大発見の舞台となった荒神谷遺跡があり、この荒神谷からわずか3km余りしか離れていないところにも、全国最多の銅鐸が出土した加茂岩倉遺跡があること、さらには出雲郡の郡家(役所)がこの山のみもと(後谷遺跡)にあったことなど、古代においてこの地域が特別な場所であったことが推察されます。

仏經山の名は、中世、戦国武将である尼子経久が、仏經に深く帰依して、この山に12坊の寺院を建立し、尼子氏の安泰を祈ったことに始まります。

山頂(アンテナ塔付近)へは、広域農道(出雲ロマン街道)沿いの仏經山入口の標識に従って駐車場へ至り、ここから歩いて約45分ほどです。途中の展望台からはオロチ神話の斐伊川や出雲平野の向こうに出雲北山を望むことができます。

仏經山は、二千年ハスの花咲く初夏の荒神谷史跡公園とともに、古代の息吹を感じさせてくれる出雲地方を代表する山です。



荒神谷史跡公園の二千年ハスと仏經山(右上)



# 森林へ行こう! vol. 12

## あづまやま 吾妻山

●奥出雲町・広島県庄原市／標高:1,238.4m

吾妻山と言えば、日本百名山の1つとして知られる吾妻山もしくは吾妻連峰(山形県・福島県)は全国的に有名ですが、中国山地の吾妻山も美しい稜線と草原で人々を魅了してやまない名峰で、日本三百名山に数えられています。

この山の名前の由来は、イザナギノミコトが比婆山に眠る妻のイザナミノミコトを、「ああ、吾が妻よ」と山頂に立って追慕したことに始まると言われています。

広島県側からは、標高約1,000mの池の原にある休暇村吾妻山ロッジを起点として40分程度で登ることのできるハイキングコースとなっています。一方、鳥根県側からは急峻な地形で奥出雲町大馬木の大峠



烏帽子山から望む吾妻山と大膳原

駐車場が登山口となっており、この駐車場(標高約600m)から約2.0kmほどは比較的緩やかな舗装道路が続き、ベンチのある広場を過ぎてからは傾斜が急になりジグザグ道を登ると森が開けて、峠の分岐に到達します。この峠にはベンチがあ

り、東側は出雲国風土記に遊託山と呼ばれる烏帽子山(1,225.1m)から御陵のある比婆山(1,264m)へ連なる縦走路が続きます。峠から西に進むと大膳原と呼ばれる草原が広がり、その先に吾妻山が美しい稜線を広げています。(所要時間は大峠から大膳原まで約1時間20分、大膳原から山頂まで約30分。登山適期は3月から11月まで。)



大膳原から仰ぎ見る吾妻山

吾妻山の山頂付近は、かつて製鉄のための薪炭用に樹木が伐採された後に放牧が行われていたことから、今日、草原ないしは低木林となっています。山頂からは四方に展望が開け、南の原に向けてのスロープや、池の原への美しい眺めが訪れる人々を癒してくれます。



# 森林へ行こう! vol. 13

ちやうすやま  
茶臼山

●松江市／標高:171.5m

松江市山代町の茶臼山は、標高171.5mの低山ですが、平野に囲まれて周囲の見晴らしが良く、733年に編纂された出雲国風土記に入海(宍道湖)を囲む4つのかんなび山の1つ「<sup>かんなびぬ</sup>神名樋野」として登場する神聖な山です。(vol. 11[仏経山]参照)

ふもとには、奈良時代から平安時代にかけて出雲国の政治の中心であった出雲国庁跡、<sup>しょうむ</sup>聖武天皇の<sup>みことのり</sup>詔によって全国に建てられた国分寺跡、税として納められた米を保存していた倉庫群の<sup>やましろうしやうそう</sup>山代郷正倉跡、出雲国風土記に記述のある2つの新造院跡(寺院跡)、都と地方結ぶ古代山陰道跡などの史跡が多数あります。

更に時代をさかのぼって、県内最大規模を誇る全長94mの古墳であり全国で初めて前方後方墳と呼ばれ、6世紀中頃の出雲国造の

墓とも言われている山代二子塚古墳、金鶏伝説の伝わる方墳の<sup>おおばにわとりつか</sup>大庭鶏塚古墳などもあり、周辺一帯が古代出雲地方の政治、文化の中心地であったことが伺えます。



出雲国庁跡から望む茶臼山



山代二子塚古墳(前)と茶臼山(後)

登山ルートは南北2つあり、南ルートの登山口は山代郷正倉跡のある通称大庭十字路から東へ約300mほど進んだ民家脇の小標識が目印で、北ルートの登山口は山代二子塚古墳の東側、市立湖東中学校前を南に進んだ民家脇の小標識が目印です。どちらのルートも登山口から20分程度で山頂へ至りますので、横断しても楽しめます。

山頂は、尼子氏と毛利氏が戦った中世に山城となっていたため平坦で、ふもとはもとより、島根半島や鳥取県の大山、弓ヶ浜半島などが遠望できます。

現在、眼下には新たな道路網の整備が進んでおり、遠い時代の面影と未来に向けた息吹が交錯するところとなっています。





# 森林へ行こう！ vol. 14

## あぞうじさん 安蔵寺山

●益田市・津和野町・吉賀町／標高：1,263.2m

安蔵寺山は、益田市、津和野町、吉賀町の1市2町にまたがり、西中国山地国定公園の西端に位置しています。広島県境の恐羅漢山(1,346.4m)や、山口県境に近い額々山(1,279.0m)などとともに、島根県内で最も標高の高い山々が連なる地域にあります。安蔵寺山の山名は、平安時代末期から南北朝時代の頃に安蔵寺という山岳密教の寺院が山頂近く、現在の寺屋敷跡にあったためと伝えられています。

登山ルートは、益田市、津和野町、吉賀町のそれぞれにありますが、ここでは津和野町側の大規模林道安蔵寺トンネル登山口からの最短ルートを紹介します。登山口からジグザグに登って行くと10分ほどで稜線に出ます。ここから南側に200mばかり進むと「ナラ太郎」と呼ばれている推定樹齢900



登山道から望む安蔵寺山の山頂



ミズナラの巨木

から山頂に至ります。山頂にはテーブル状の岩があり、その下には安蔵寺観音が祀られています。山頂からの展望も見事ですが、南に5分ほど進むと展望台があり、西中国山地のさらにすばらしい眺めを楽しむことができます。(所要時間は登山口から山頂まで約1時間30分。登山適期は4月から11月上旬。)

西中国山地は、環境省のレッドデータブックで「絶滅のおそれのある地域個体群」となっているツキノワグマの生息地です。登山の際は、クマ鈴を携行するなどの注意も必要です。また、登山のマナーを守ってツキノワグマの生活を脅かすことの無いように心がけたいものです。安蔵寺山は、その豊かな自然に人と自然との共存を想起させられる霊峰です。



●雲南市・松江市／標高:[馬鞍山]371.7m、  
[大平山]410.3m、[八重山]407.0m

雲南市と松江市の境に位置する馬鞍山、大平山、八重山は、雲南市側から見ると3つ山が連なって見え、「幡屋三山」と呼ばれています。八重山は、出雲国風土記には「林垣峰」と呼ばれ、意宇郡(現松江市)から大原郡(現雲南市)への通り道のある場所として記述されています。

地元では、馬鞍山は丸倉山、八重山は八十山と記述され、ハイキングコースとして案内板も所々に設置されています。

馬鞍山登山口へは、雲南市大東町幡屋の幡屋公民館から宍道湖南部広域農道へ向かう市道の途中にある「丸倉山入口」と大きく書かれた看板を目印に向かいます。馬鞍山登山口から八重山山頂近くには林道も続いているので、この林道を帰り道に使うこともできます。馬鞍山山頂へは登山口から



雲南市大東町幡屋から望む幡屋三山  
左から馬鞍山、大平山、八重山

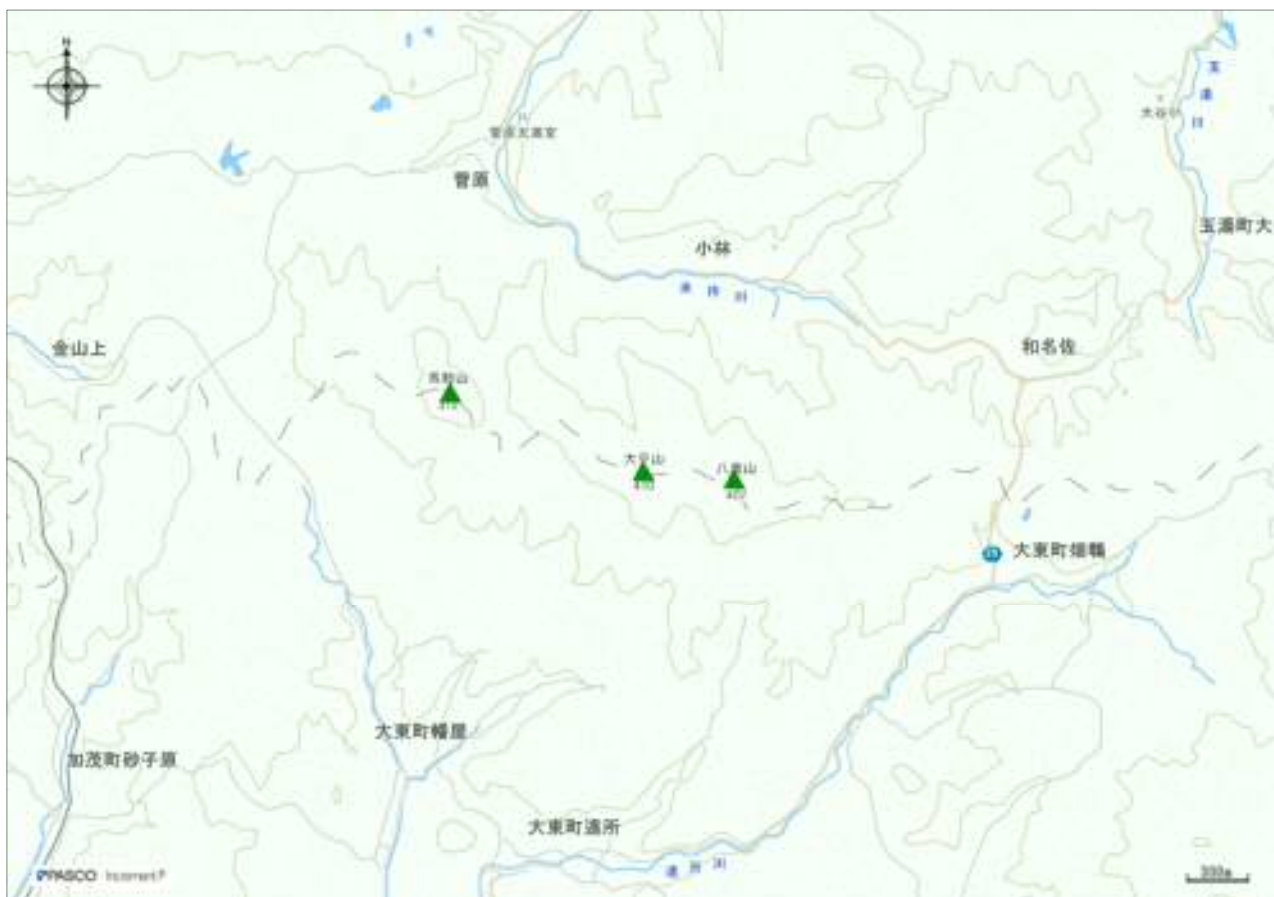
30分ほどで到達します。この山頂からは北に宍道湖と島根半島、南に中国山地の山々が望めます。馬鞍山から大平山へは、



所々に設置されている案内板

東に向かって一度鞍部の沢に降りて再び登り、平坦な尾根の道を進みます。大平山山頂は三角点の標石があるだけで、見晴らしは良くありません。この標石からさらに東進して林道から登ったところが八重山山頂です。八重山山頂には地蔵の鎮座する小屋があり、広場もあって北東方向への見晴らしは良く、宍道湖北岸や鳥取県の大山などが見渡せます。(所要時間は馬鞍山登山口から八重山まで約1時間40分)

幡屋三山では、アカマツ林を守るために松くい虫防除の取り組みが続けられ、被害跡には植林も行われています。地元の人々の熱意によって守られている身近な山々です。



# 森林へ行こう！ vol. 16

あさひさん  
朝日山

●松江市／標高：341.8m

出雲国風土記に書かれている国引き神話で、古代出雲国の国土を補うために引き寄せられた土地が現在の島根半島です。朝日山は、その島根半島の中央部に位置しており、風土記には古代の入海(宍道湖)を囲む4つのかんなび山の一つとして登場します。(vol. 11[仏経山]・vol. 13[茶臼山]参照)

そして、風土記にはふもとに佐太大神さだのおおかみの社があるとも書かれており、現在は朝日山の東方約2kmの佐蛇川沿いに正殿と南北の両殿が並立した大社造りの佐太神社として壮麗な社が今日に引き継がれています。

また、朝日山の頂上稜線の中央部には、奈良時代の僧、行基ぎょうきが720年代半ばに創建したと伝わる真言宗の古刹こせつ、朝日寺があり、閑静な雰囲気にも包まれています。江戸時代には松江藩主の祈願所として栄え、現在も出雲札所霊場として巡礼の姿が見られ、地元では「あさいさん」と呼ばれて、親しまれています。



新緑が美しい朝日寺



南東の田園地帯から見る朝日山

登山コースは、表参道である松江市東長江町からの長江コース、中国自然歩道となっている同市鹿島町古浦からの古浦コースと、同市荘成町の成相寺からの成相寺コースなど幾つもありますが、朝日寺までは一般的な長江コースで約15分、古浦コースで約40分です。そこから一等三角点のある東の峰(341.8m)まで約5分、最も高い西の峰(344m)まで約10分です。眺望の良い東の峰からは、眼下に古浦の街並みを見下ろし、遠く日本海の彼方に隠岐諸島を望むこともでき、南に宍道湖や周辺の山々を見渡せます。

朝日山は、歴史をたたえ、優しい姿で人々に親しまれ続ける身近な霊峰です。



# 森林へ行こう! vol. 17

## あおのやま 青野山

●津和野町／標高:907.6m

青野山は、山陰の小京都・津和野のシンボルで、古くは妹山いもやまと呼ばれ、多くの歌人や画家の題材となるなど津和野八景の一つに数えられる丸くて優しい容姿の山です。

溶岩円頂丘(トロイデ型火山)である青野山は、小青野山(684m)、鍋山(614m)、山口県境の野坂山(640.2m)などとともに青野火山群として総称され、130~10万年前の火山活動によって形成されたと言われています。

青野山の北東には、この火山活動により地倉山(622m)の溶岩が谷をふさいでできた地倉沼ちくらぬまが標高430m程の高みに広がり、モリアオガエルの生息地としても知られています。

青野山の登山口は、北西の青野山林道奥の青野あおのがわら積駐車場からと、



青野山と津和野の街並み

南の笹山集落の県道沿いからの2箇所がありますが、ここでは笹山登山口からの笹山コースを紹介します。登山口の鳥居をくぐると地元の小学生が作成した「あと1300m」と書かれた標識があり、その後は単調な急坂の山道が続きます。標識は100m毎に登山者を励まし楽しませてくれます。山頂は広々とした草原で、西に安蔵寺山あんぞうじさん(1263.2m)、東に十種ヶ峰とくさがみね(988.8m)などの眺望もすばらしく、津和野城に向かって青野山王権現が鎮座しています。(所要時間:約1時間、登山適期:通年)

青野山の美しい山容を眺めるには、津和野の街並みを挟んだ霊亀山(367m)上へ14世紀前半に築かれた津和野城跡が最適です。青野山は、古くから地域の人々に崇敬され、親しまれつづける美峰です。



津和野城跡から見る青野山



# 森林へ行こう! vol. 18

## おおよろぎさん 大万木山

●飯南町・広島県庄原市／標高:1218.0m

大万木山は、島根県と広島県との県境に並ぶ中国山地脊梁部の<sup>せきりょうぶ</sup>1200mを超える山の一つで、出雲国風土記には、斐伊川の支流三刀屋川の源流「多加山」と記されています。

大万木山には、170種類以上の樹木や70種類以上の鳥類、その他の動植物の生命が営まれていると言われ、山頂付近のブナの天然林は特に美しく見事です。

山名の由来は、たくさんの木が茂っているからという説や、昔、「ゆるぎ山」(揺れ動くの意)と呼ばれていたことからという説など諸説がありますが定かではありません。

山頂は、太古の地盤隆起による隆起準平原の特徴を残して平坦で広く、樹木で見通しが悪いため、昔、座頭が7日間も迷って杖を立てたまま亡くなった“大万木山の七日迷い”という逸話も伝えられています。



琴引山から望む大万木山 (中央後方)



山頂大ブナ

登路は、「滝見コース」、「権現コース」、「溪谷コース」の3コースがあり、これをつなぐ横断路の「横手コース」や南西方向に琴引山、北東方向に毛無山などをつなぐ縦走路も整備されています。健脚には「権現コース」もありますが、一般的には門坂谷駐車場からの「滝見コース」か、位出谷駐車場からの「溪谷コース」のどちらかを起点として、山頂へ登り、山頂の広場から少し離れた“山頂大ブナ”と展望台に立ち寄って、登りとは別のコースを下り、途中から「横手コース」を利用して、元の駐車場に戻るコースがお勧めです。(山頂までの所要時間は、何れのコースも1時間30分前後。登山適期は3月下旬から12月上旬。) 大万木山は、飯南町の森林セラピー基地となっている“島根県民の森”のシンボリックな雄峰です。



●出雲市／標高:506.0m

出雲北山を代表する弥山は、出雲国風土記には杵築大社(出雲大社)がふもとに鎮座する出雲御崎山として登場します。

この風土記で有名な国引き神話では、出雲御崎山を含む八穂米支豆支の御崎(出雲市大社町日御崎～同市小津町)は、朝鮮半島の新羅の岬から引き寄せた土地で、この土地をつなぎ止めるために立てた杭が三瓶山で、引いた綱が藺の長浜になったと伝えられています。

現在の山名、弥山とは須弥山の略称で、古代インドの世界観で中心にそびえる山のことを言い、神仏習合の名残と考えられます。近くでは鳥取県の大山や広島県の宮島など信仰の地に同じ山名が見られます。



出雲大社大鳥居から望む弥山

登山道は、出雲大社のある南側からだけでなく、パワースポットとして注目されている韓籠神社のある北側、山頂を東西に結ぶ縦走路からなど多数ありますが、ここでは南側の国道431号線沿い“みせん広場”から子安寺近くの一般コースを登って正参道コースに下るルートを紹介합니다。一般コースは、登山口からいきなり急なジグザグ道を登り、途中なだらかになって最後の岩場を登り山頂へ約1時間です。そして今回下りの正参道コースは、山頂(506.0m)の出雲御山神社から東側にある三角点(495.8m)の横を通過して阿須伎神社近くの国道431号線沿いに降り、“みせん広場”まで戻って約1時間です。〔登山適期:3月～12月〕



山頂から望む藺の長浜と三瓶山

山頂と三角点の間にある稜線の岩場からは藺の長浜と遠く三瓶山を望む海と陸のパノラマが広がり、神話の世界を彷彿とさせてくれます。弥山は、出雲北山のシンボルで、出雲地域の人々の親しみと畏敬を集める霊峰です。



# 森林へ行こう! vol. 20

## ひばやま 比婆山

●安来市／標高:280.0m

日本最古の歴史書“古事記”では、天と地が開かれ高天原<sup>たかまがはら</sup>に現れた最後の神がイザナギノミコトとイザナミノミコトと記されています。この二人の神によって本州など14の島々と数多くの神々が生まれましたが、火の神を生んだときにイザナミノミコトが大やけどで死んでしまい、出雲国と伯伎<sup>ははき</sup>(伯耆)国の国境の比婆之山に葬られたと記されており、多数の伝承地があります。江戸時代の国学者本居宣長は“古事記伝”の記述でこの比婆山を有力視しています。

比婆山山頂には、イザナミノミコトを主祭神とする比婆山久米神社とその御神陵があり、古くより各地の豪族などの崇拝が厚く、戦国時代のあまごつねひさ<sup>あまごつねひさ</sup>尼子経久も厚く信仰していたと伝えられ、江戸時代には峯山大権現と呼ばれ信仰を集めました。この山頂の神社近くには、直径が2~3cmの真



安来市伯太町横屋から望む比婆山

竹のような幹に、笹のような大きな葉(幅約6cm、長さ約25cm)を付け、島根県の天然記念物にも指定されているインヨウチク(陰陽竹)という珍しい竹が分布しています。



山頂にある比婆山久米神社と御神陵

登山コースは、横屋集落の久米神社からの横屋コースと、峠之内集落<sup>たわのうち</sup>からの峠之内コースの2コースが一般的で、いずれも30分程度です。〔登山適期:9月~6月〕

日本の成り立ちと国造り、国譲りなどの神話が記された“古事記”上巻の主な舞台である島根県では、古事記編纂1300年にあたる2012年(平成24年)をひかえ、県内各地で観光キャンペーンが展開され、比婆山も“古事記”の神話ゆかりの地として紹介されています。比婆山は、古代のロマンを秘め、今も地元の人々に大切に祀られている霊山です。



# 森林へ行こう! vol. 21

## だい まん じ さん 大満寺山

●隠岐の島町／標高:607.7m

隠岐諸島の島後は、600～500万年前の隠岐諸島における火山活動で、島前と同様にカルデラを形成したとされています。

島後の最高峰、大満寺山はその島後火山の中心火道で、西側では横尾山(572.8m)、大峯山(473.9m)、などの外輪山が見られ、東側は海底に半円形状に並んだ外輪山地形を見いだすことができ、島の東側が地殻変動により水没したものと考えられています。

隠岐諸島は、ユーラシア大陸の一部であった時代から湖や海の底であった時代など幾多の変遷を経て、最終氷期の終わった約1万年前に現在のような離島となりました。そのため、現在でも南方と北方の植生が混在するなど独自の生態系を有しています。

大満寺山からアルカリ流紋岩の奇岩“トカゲ岩”に至る“隠岐自然回帰の森”では、高さ80mにもおよぶ柱状節理の絶壁、鷲ヶ峰(550.0m)の“屏風岩”や、樹齢200～400年以上の“天然杉群落”、樹齢800年と言われる“岩倉の乳房杉”などが見られます。大満寺山山頂へのルートは林道有木線奥からと、林道南谷線の稜線越えからの2つあり、“岩倉の乳房杉”がある林道南谷線登山口からは約20分で山頂です。また、その登山口の反対方向に鷲ヶ峰登山コースが整備されており、約20分で鷲ヶ峰分岐、さらに約40分でトカゲ岩の岩峰へも縦走でき、途中に林道中谷線奥の駐車場へ下るルートも整備されています。〔登山適期:3月～11月〕

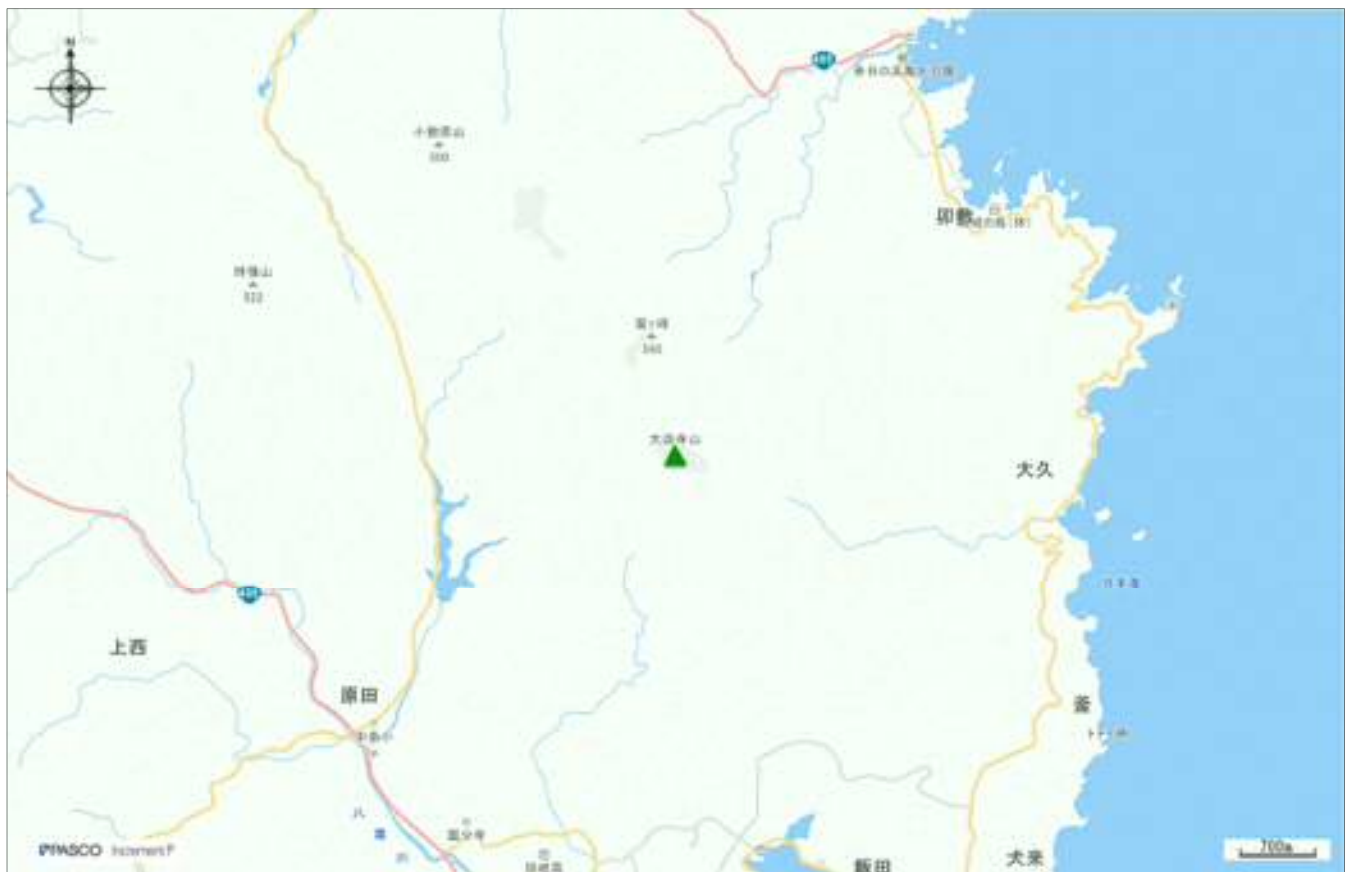


風化により形作られた奇岩  
“トカゲ岩”



西郷港と大満寺山(中央)の夕景

地球(ジオ)に関わる様々な自然遺産を有する隠岐諸島は、2009年10月に日本ジオパークに認定され、昨年11月には世界ジオパークへの加盟申請が行われており、今年秋にその認定の可否が決定されます。大満寺山は、隠岐ジオパークのシンボリックな秀峰です。





●松江市／標高:[真山]256.2m、[白鹿山]150m

松江城の北に位置する真山と白鹿山は、松江城を築いた堀尾吉晴・忠氏による松江開府以前の戦国時代の古戦場です。

15世紀末から現安来市広瀬町の月山富田城を拠点として山陰から山陽の8カ国に勢力を拡大した尼子氏は、1562年に安芸国(現広島県)を拠点とした新興の毛利元就に侵攻されました。この時、尼子方の出城で尼子十旗の第一と謳われ、当主尼子義久の義伯父、松田誠保が城主であった白鹿山の白鹿城は、月山富田城攻略への戦略上の拠点であったことから、毛利方に包囲されます。毛利方は、この白鹿城攻撃のため白鹿山の北にある真山に向城となる真山城を築くなど、月山富田城との分断を図り、白鹿城は激戦の末、翌年落城します(白鹿城の戦い)。

そして、1566年には月山富田城の当主尼子義久も降伏し、戦国大名としての尼子氏は滅亡しました。その後、1568年に尼子氏再興を期する山中鹿介(幸盛)らに擁立された尼子勝久は、島根半島に上陸後、真山城を奪取し、月山富田城の奪還を狙いましたが敗退、真山城は再び毛利氏の手になり、夢は潰えます。



真山山頂の尼子勝久顕彰碑

真山の登山ルートは、林道真山線のソフトビジネスパーク寄り登山口からが一般的で、尾根づたいの登山道を登っていくと、三ノ床、二ノ床、一ノ床と続く階段状の区画があり、山頂の本丸跡まで約40分です。そこから馬蹄状の尾根を縦走することもでき、林道真山線沿いの白鹿山西の谷登山口へと至ります。白鹿山へは、この西の谷登山口から一ノ床の山頂まで約20分あまりです。〔登山適期:3月~12月〕

真山と白鹿山は、いにしへの武将達の夢と攻防の跡ですが、今日では市街地近郊の身近な山歩きの間場となっています。



松江市法吉町から望む真山(左後方)と白鹿山



●飯南町、(広島県三次市)／標高:830. 3m

女亀山は、島根・広島両県を結ぶ国道54号線沿いの県境に位置しています。広島県側からは山体の全景が望めるものの、島根県側からは山頂をわずかに望むばかりで山体の全景は望めません。女亀山の山頂には自然環境保全地域に指定されたブナやコナラなどの天然林が広がり、その周辺はスギやヒノキの造林地に囲まれ、資源豊かな山容です。出雲国風土記には、神門川(神戸川)支流の源である<sup>ややま</sup>箭山と記されており、現在は登山道の中程に神戸川源流の石碑が建てられています。

女亀山には、古事記や山城国風土記逸文の神話とよく似た<sup>にぬりや</sup>丹塗箭神話が伝えられています。女亀山に住む玉依姫(巫女のこと)は、赤い矢に姿を変えて近づいてきた<sup>おおやまくいしん</sup>大山咋神にふれて<sup>か も べついかづちのみこと</sup>加茂別雷命を産み、現在の赤穴八幡宮のあるところに生まれたとする神話で、この地域では赤穴八幡宮の創建神話として伝えられ、赤名という地名のもとになったとも言われています。

登山道は島根・広島の両側にありますが、島根県側の登山口は、国道54号線を広島方面に向かって赤名トンネルへの急坂の手前を南西方向に向かい、神戸川に沿って約3km程進んだところ。登山口から、スギ・ヒノキの造林地の中を進むとやがて石碑があり、県境稜線に出るとブナやコナラなどの広葉樹林の急坂となり、広く平らな山頂に至ります。山頂には、女亀山神社の小さな祠と一等三角点があり、眺望はほとんど無いものの気持ちの良い木陰に囲まれ、季節によって、新緑や紅葉、鳥のさえずりなどを楽しむことができます。〔所要時間:約40分(登り)、登山適期:4月~11月〕



神戸川源流の石碑



飯南町上赤名から望む女亀山

女亀山は、かつて雨乞い神事が行われ、明治・大正の頃までは女人禁制の山であったと伝えられ、今日でもふもとの人々から敬われている神山です。



# 森林へ行こう! vol. 24

## や たき じょう ざん 矢 滝 城 山

●大田市／標高:634.2m

矢滝城山は、石見銀山遺跡の銀鉦山跡がある仙ノ山(538m)などとともに、大江高山(808m)を盟主とする大江高山火山群に属し、160~70万年前の火山活動によってできた溶岩円頂丘です。標高は今年オープンした東京スカイツリーと同じ634mです。

矢滝城山は、その山名のとおり城跡で、周防国(山口県)を拠点とした戦国大名大内氏が1528年頃に築城した城塞です。矢滝城と隣り合う矢筈城は、銀山街道の峠“降路坂”を挟んで、石見銀山の積み出し港の一つである沖泊への要衝となっていました。現在、この城跡は何れも世界遺産のコアゾーンに登録されています。

ヨズクハデの里として知られる大田市西田地区は、この銀山街道の宿場町として、かつて栄えた町です。ヨズクハデはこの地区に独特の技法で、神代にウワツワタツミノミコト(上津綿津見命)とウワツツオノミコト(上筒男命)の二柱の海神によって伝えられたものとこの地区の水



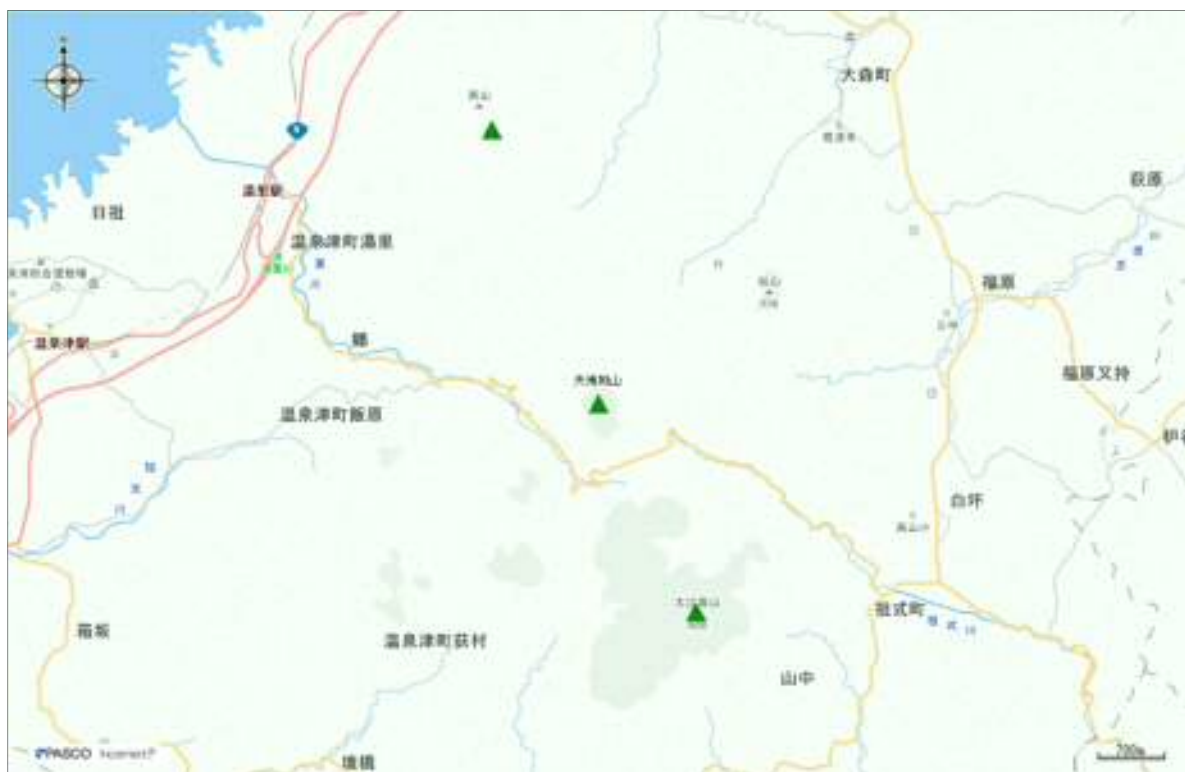
ヨズクハデと矢滝城山(中央後方)

上神社に記されています。この二柱の海神は、イザナギノミコトが黄泉の国から戻って禊ぎを行った際に誕生した海神で、ある時日本海で暴風雨にあつてこの近くに漂着し、周辺の人々に製塩や稲作の技術とともに、漁網の干し方を取り入れた稲ハデの作り方を教えられたのが始まりと伝えられています。

登山口は、国道9号線の大田市温泉津町湯里から県道を同市祖式町方面に向かって進み、矢滝城山トンネルを越えたところにあります。登山道は、はじめトンネルの上へ回り込み、そこから尾根を登ります。途中平坦になりますが次第に急登となって約40分で山頂です。山頂には、中継局跡の廃屋が残されていますが、北側には平坦な広場もあり、眺望は良好です。〔登山適期: 通年〕 矢滝城山は、太古の誕生から、様々な時代の人々の営みを見つめてきた群峰の一つです。



男三瓶山から望む大江高山火山群の山並み(後方)



# 森林へ行こう！ vol. 25

## ば ちやく さん 馬 着 山

●松江市／標高：210.0m

馬着山は、島根半島東端の美保関にあり、三方を海に囲まれた低山です。出雲国風土記の国引き神話では、三穂の埼(美保関)は高志(北陸地方)の岬を引き寄せた土地で、引き寄せた綱が夜見嶋(弓ヶ浜半島)、つなぎ止めた杭が火神岳(大山)と記されています。

馬着山のふもとには、美保神社が鎮座し、御祭神は現在、オオクニヌシノミコト(大国主命)の息子、コシロヌシノミコト(事代主命)と、後のミホツヒメノミコト(三穂津姫命)となっています。しかし、出雲国風土記によれば、御祭神はオオクニヌシノミコトと高志のヌナガワヒメ(沼河比売)との間に生まれた姫神、ミホスミノミコト(御穂須須美命)と記されており、国引き神話との関連を想起させられます。

古事記の国譲り神話では、オオクニヌシノミコトが高天原からの使者を迎えた際に、三穂の埼で釣りをしていたコシロヌシノミコトに、国譲りを相談し、コシロヌシノミコトが承諾されたことが記されており、現在もこの神話にちなんだ青柴垣神事と諸手船神事が美保神社と美保湾を舞台に営まれています。



初代関の五本松のモニュメント

馬着山の登山道は、美保湾手前の“関の五本松公園”入口から美保関灯台のある地蔵崎まで遊歩道として整備されています。公園入口から遊歩道を進むと初代関の五本松のモニュメントがあり、ここから馬着山の山容と美保湾を望むことができます。そして平和慰霊塔のある高台の広場を抜け、現在、ミホスミノミコトを祀る御穂社を経て、後醍醐天皇ゆかりの仏谷寺へ下る分岐に至ります。そこから尾根道を昇り、木立の道ばたにはっきりとしたピークではありませんが標識のある場所が山頂です。山頂から更に東へ進むと、やがて緩やかな尾根道となり地蔵崎にも向かえます。【登山適期：通年】 馬着山は潮風に囲まれた、神話にゆかりの身近な低山です。



関の五本松公園から望む馬着山と美保関漁港



●奥出雲町・広島県庄原市／標高:1267.7m

猿政山は、島根県東部の最高峰で、中国山地脊梁の島根・広島県境に位置しています。出雲国風土記には、御坂山とよばれ、神の御門があったところと記されており、近くにイザナミの地名がみられるように、イザナミノミコトが祀られた場所との言い伝えもあります。

現在の山名は、“去る真砂”から転じたものと言われ、猿政山を含む中国山地が花崗岩質であることに起因するものと考えられます。猿政山のある奥出雲地域を中心に、かつて盛んだった“たたら製鉄”では、原料の砂鉄を風化した花崗岩(真砂土)から採取していました。山際に水路を設けて、崩した土砂をそこに流し、比重の違いから砂鉄を分離して採取する方法で、“かな流し”と呼ばれていました。このため、砂鉄の採取によって、大量の真砂土が下流に排出され、猿政山など奥出雲地域に源を発する斐伊川の河口では宍道湖に約4kmもの堆積地を作るなど、自然環境の改変にも大きな影響を及ぼしたと言われていました。

猿政山の登山コースは、この地方で“たたら製鉄”を行ってきた櫻井家の歴史資料館・可部屋集成館がある奥出雲町上阿井の内尾谷からとなります。可部屋集成館から林道を約2.5km程進んだところに内尾谷集落があり、ここを起点として林道を進み終点に至ると、山頂への取り付きの目印があります。この目印に従って尾根に向かい、笹藪の尾根を南西に進み、最後の急坂を登り切ると山頂です。【所要時間(登り):約3時間、登山適期:4月～11月】



一等三角点のある猿政山山頂

猿政山は、登山道や道標などが十分に整備されていないため、意欲ある登山者には登りがいがある反面、道迷いや野生動物などへの十分な注意も必要です。

今日、豊かな森林に包まれた猿政山は、人の営みと自然との共生を、より適切に考える契機となる峻峰です。



鯛ノ巣山から望む猿政山



●雲南市、松江市／標高:424.1m

八雲山は、雲南市大東町と松江市八雲町の境界に位置し、出雲国風土記には須我山と記されています。古事記・日本書紀には、高天原を追放され、簸の川(斐伊川)の上流でヤマタノオロチ(八岐大蛇)を退治したスサノオノミコト(素戔嗚尊)が、妻のクシナダヒメ(奇稻田姫)と住む場所を探して、現在、須我神社のある場所を訪れ、「私の心はずがすがしくなった」と言い、宮を建てて住んだことから、「須我」という地名になったと記されています。このため、須我神社は“日本初の宮”とも呼ばれています。

また、八雲の地名はスサノオノミコトがこの宮で、美しい雲が幾つも立ち上るのを見て、「八雲立つ出雲八重垣妻籠みに八重垣作るその八重垣を」という日本最初の和歌を詠んだことに由来しています。

八雲山の中腹には、夫婦岩と呼ばれる巨石があり、須我神社奥宮として崇拝されています。こうした巨石崇拝は“磐座信仰”と呼ばれ、島根県東部を中心とした古代出雲の勢力圏に広がっているとも言われています。



雲南市大東町山王寺から望む八雲山



夫婦岩と呼ばれる須賀神社奥宮

八雲山への主な登山コースは、雲南市側の引坂コースと夫婦岩コースの二つです。引坂コースは、県道沿いの薦沢集会所から引坂集落をへて進んだ林道終点にある登山口からです。夫婦岩コースは、須我神社から八所集落をへて約2kmほど進んだ林道沿いの登山口からです。このコースには登って間もなく“神泉坂根水”と記された湧き水があり、階段を登るとしめ縄のかかった夫婦岩があります。さらに15分ほどで眺望の良い山頂です。【所要時間(登り):引坂コース約20分・夫婦岩コース約30分、登山適期:4月~11月】

八雲山は、スサノオノミコトなどの古代出雲神話に彩られた秀峰です。



● 邑南町 / 標高: 859.3m

冠<sup>かんむり</sup>を被ったような形から冠山と呼ばれ山が、中国山地には数多くみられます。このため、邑南町井原と高見の境にある冠山は一般に“石見冠山”と区別して呼ばれています。

中国地方の大地形は、大万木山<sup>おおよろぎさん</sup>[vol. 18参照]などでも紹介したとおり、脊梁部の標高1200m前後の隆起準平原を「高位面」とし、大別して3つの準平原からなる階段状地形となっています。石見冠山のある石見高原は、山陽地方の吉備高原とほぼ同じ標高500m前後の「中位面」に分類され、中国山地の脊梁部を挟んで“吉備高原面”と総称されています。そして、石見冠山はその石見高原の山々の中に屹立し、周囲を見渡す堂々とした山容となっています。



矢上 (於保知) 盆地と石見冠山

石見冠山のある邑南町は、奥出雲町などと同様に、“たたら製鉄”が盛んに行われたところで、“野だたら”と呼ばれる簡易な“たたら”の遺構が多く見られます。石見冠山山麓<sup>えんいた</sup>の円の板にある“三滝の観音”は、戦国時代に関東の北条氏に追われて、この地に移り住み“たたら製鉄”で栄えた野田氏によって建立されたものと伝えられています。



石見冠山山頂

石見冠山の登山コースは、東西2つのコースが一般的です。西側の野原谷<sup>のんぼらだに</sup>コースは、国道261号線沿いの深篠川キャンプ場上流の町道沿い登山口からで、メタセコイアの大木を経て谷間の急坂を登り、“たいのすけ釘跡地”の標識がある峠から支尾根を経て、主稜線上の山頂に至るコースです。また、東側の円の板コースは、“三滝の観音”へ至る林道円の板線沿いの登山口から、主稜線で野原谷コースと合流して山頂へ至るコースです。  
【所要時間(野原谷コース登り): 約90分、登山適期: 3月~12月】

石見冠山は、東西2つのコースで同時に登山行事が行われるなど地域をつなぎ、親しまれている秀峰です。



# 森林へ行こう! vol. 29

## たぶしさん 旅伏山

●出雲市／標高:417m(三角点:456.5m)

旅伏山は、出雲国風土記の国引き神話と深い関わりを持っています。山名は、国引き神話の主人公、八束水臣津野命<sup>やつかみづおみつぬのみこと</sup>が朝鮮半島から旅をしてきた際に、この山で休息されたことに由来していると言われています。

旅伏山のある出雲北山地域は、弥山[vol. 19参照]でも紹介したとおり国引き神話において、「八穂米支豆支の御埼<sup>やほしねきづきみさき</sup>」と呼ばれ、朝鮮半島の新羅の岬を引き寄せた土地と記されており、ふもとの国富町<sup>くんどみちよう</sup>には、国を繋ぎ留めた「要石<sup>かなめいし</sup>」も伝えられています。また、出雲国風土記によれば旅伏山には、「多夫志烽<sup>たぶしのとぶひ</sup>」と呼ばれる「烽」もあったと記されています。「烽」は、緊急時に狼煙や炎を上げて緊急を知らせるための施設で、松江市の嵩山など他の「烽」とともに、国庁や兵士の駐屯地などとの情報伝達を行ったものと考えられています。現在、「烽」のあった場所は、山頂広場となっており、そこからは出雲平野とその平野を横切る斐伊川を一望にすることができます。



山頂広場



斐伊川から望む旅伏山

旅伏山の登山コースは、ふもとのからの出発地点別に数えると10コース以上ありますが、金山地区からの中国自然歩道コースが一般的です。旅伏山登山口の看板が整備された駐車場からニホンジカによる被害防護柵の扉を通過して、緩やかな登山道を登ると、9合目に都武自神社の石段があり、そこを過ぎるとすぐに山頂広場です。【所要時間:約60分、登山適期:通年】

山頂近くの都武自神社のご祭神「速都武自和気命<sup>はやつむじわけのみこと</sup>」は、風の神様で、八束水臣津野命の旅を手助けした旅行安全の守護神と言われ、山名とも重ねて、通称「旅伏さん」と呼び親しまれています。傘型の特徴的な形の旅伏山は、神話に彩られ、古代から今日まで多くの人々に敬われてきた身近な山です。





# 森林へ行こう! vol. 30

## ま じ た か やま 馬 路 高 山

●大田市／標高:499.4m(弥山:三角点)

馬路高山は、世界遺産登録された石見銀山遺跡のある仙ノ山などとともに、大江高山火山群に属す溶岩円頂丘です。二つの山頂を持つ双耳峰で、三角点のある南東側の山頂が弥山と呼ばれる最高点です。

馬路高山の北には、日本海に面して、鳴り砂の浜で有名な琴ヶ浜<sup>ことかはま</sup>があります。鳴り砂は石英質の砂で、大きさや表面の形が一定の性質を持っていることが特徴です。馬路高山の北側に位置する天河内地区の丘陵地や日本海に注ぐ潮川支流の天河内川などの砂が琴ヶ浜の砂と同じ成分であると言われており、潮川から日本海に注がれた石英質の砂が、沿岸流によって今日の琴ヶ浜など周辺のいくつかの鳴り砂の浜を形成したものと考えられています。そして、天河内川上流部に位置する馬路高山の地質が、デイサイトと呼ばれる石英質の火山岩であることと関係しているとも言われています。



琴ヶ浜(手前)と馬路高山(左奥)

馬路高山の登山口は、琴ヶ浜沿いの国道9号線から山陰自動車道の高架をくぐる市道を進み、NTTの管理道入口を過ぎ、坂道を下った道路脇にあります。登山口の目印は近くの貯水タンクと五輪塔です。最高点の弥山には、山腹の荒れたジグザグ道を経て、岩の多い尾根道を進みます。三角点のある山頂は、樹木に囲まれて眺望がありません。弥山からもう一方のピークへは、鉄塔を目指して鞍部へ下り、登り返します。このピークは、鉄塔のフェンスに囲まれています。日本海方向にわずかな眺望が得られます。なお、馬路高山の登山道には、案内板や目印のテープなどが少ないので、道迷いに注意が必要です。【所要時間(登り):70分、登山適期:通年】馬路高山は、石見海岸に屹立し、鳴り砂の起源とも言われる神秘の秀峰です。



矢滝城山から望む馬路高山(中央)



●松江市・安来市／標高:610.4m

天狗山は、出雲国風土記に熊野山と記され、かつては熊成峰<sup>くまなるのみね</sup>、あるいは天宮山<sup>てんぐうさん</sup>とも呼ばれてきた山です。ふもとに鎮座する出雲一ノ宮・熊野大社の元宮があったところと伝えられており、毎年5月には、熊野大社の神職が登拝して元宮祭が行われています。

現在の熊野大社の南側には、明治期まであった熊野大社の上の宮跡があり、その後背地の御笠山には、天狗山を望む遙拝所が残されており、天狗山の山頂付近を仰ぎ見ることができます。

天狗山の登山道は、現在、松江市八雲町側のみです。熊野大社から県道を南に500mほど進み、標示に従って進んで行き、舗装が切れた先にある駐車場からとなります。

駐車場から林道を約1.2kmほど歩いていくと、やがて登山口の標柱や案内板の立つ広場に出ます。ここから本格的な登山道となり、中海に注ぐ意宇川の水源を過ぎ、更に登っていくと「不思議な構築物」と記された石組み跡へ出ます。頂上に続く尾根の手前には、「元宮平」と呼ばれる元宮の齋場跡(祭場跡)があります。この齋場跡の上方斜面にあるしめ縄のかけられた巨石が「磐座」と呼ばれる元宮です。「磐座」は、八雲山[vol.27 参照]でも紹介したとおり、古代の信仰対象で、今日のような社殿造りの神社が人里近くに建てられるようになる前の崇拝場所と言われています。

齋場跡を過ぎると尾根道に出て、一踏ん張りで山頂です。山頂は、近年樹木が大きくなり北方向の眺望しか得られませんが、意宇川の流れる古代出雲の中心地・意宇平野とその先の中海、遠く島根半島が望めます。【所要時間(登り):70分、登山適期:4月~11月】天狗山は、熊野大社主祭神・スサノオノミコト伝承の霊山です。



熊野大社上ノ宮跡遙拝所から望む天狗山



熊野大社元宮の磐座



# 森林へ行こう！ vol. 32

## ゆびたにやま ゆびたにおく 指谷山・指谷奥

●飯南町、(広島県庄原市)

／標高:[指谷山]967. 2m、[指谷奥]1047. 9m

指谷山と指谷奥は、島根県と広島県の県境稜線上に位置しています。島根県側は県有林で、大万木山(1218m)を含む周辺の県有林とともに、平成5年から「島根県民の森」として、自然や森林とのふれあいの場となっています。

指谷山のふもとの県民の森の一部は、森の癒やし効果を活かし、健康増進やリハビリテーションに役立てる場として、平成19年に「森林セラピー基地」に認定されました。現在は、「飯南町ふるさとの森」となっており、森のホテル「もりのす」や、オートキャンプ場、山野草園、セラピーロード(遊歩道)などがあります。



森のホテル「もりのす」

指谷山への登山口は、「も

りのす」手前の林道分岐からです。初めはスギやヒノキに囲まれた林道を進みます。やがて登山道にかわり、尾根筋に達する頃からブナの大木が見られるようになります。尾根の分岐点からさらに登山道を登ると木地屋谷展望台です。ここから県境稜線の縦走路となり、指谷山山頂に至ります。指谷山から指谷奥までの縦走路は急坂のアップダウンですが、森の回廊となっており、所々の木々の切れ目から近くの大万木山や草ノ城山(976. 3m)などが望めます。県民の森の縦走路は、途中にエスケープルートもあるので、体力に合ったコース設定が可能です。【所

要時間:指谷山まで約70分、指谷山から指谷奥まで約50分、登山適期:4月～11月】

なお、指谷山や指谷奥など中国山地の山々はツキノワグマの生息地です。クマ鈴を携行するなど、ツキノワグマと出会わないための注意が必要です。指谷山と指谷奥は、森林に包まれた自然豊かな癒やしの山なみです。



草ノ城山から望む指谷山



●出雲市／標高:327.2m

出雲国風土記には、現在の宍道湖(当時の入海<sup>いりうみ</sup>)を囲む四つのかんなび山が紹介されています。大船山は、この風土記に登場する<sup>たてぬいぐん</sup>楯縫郡(現出雲市)の<sup>かんなびやま</sup>神名樋山で、同じ出雲市の<sup>いりうみ</sup>仏経山(vol. 11)、松江市の<sup>あまの</sup>茶臼山(vol. 13)、朝日山(vol. 16)を合わせた四つの山が「かんなび山」(神名樋山、神名火山)と呼ばれています。

「かんなび」とは、「神の隠れこまれる」という意味で、当時の人々の信仰の対象として崇められた場所を指すものと考えられています。

風土記の大船山の記述には、「みねの西に石神あり。高さ一丈(約3m)、周りを一丈。こみちのほとりに小石神百余ばかりあり。…いわゆる石神は、すなわちこれ<sup>たきつひこのみこと</sup>多伎都比古命の御魂なり。ひでりに



出雲市多久町から望む大船山



石神と推定されている烏帽子岩

もの急坂が続きます。尾根に出ると平坦になり、眺望の無い標識と三角点だけの山頂に至ります。更に山頂の北側を廻って西に進むと約15分ほどで、風土記の石神と推定されている烏帽子岩に至ります。【所要時間: 山頂まで約50分、山頂から烏帽子岩まで約15分、登山適期: 通年】大船山は、古代の信仰が風土記にも伝えられる歴史ある霊山です。

あいて雨を乞う時は、必ず降らしめたまう。」と記されており、現在、実際に「烏帽子岩」と呼ばれる巨石が山頂近くにあり、祭祀用の土器も出土していることから、古代の信仰がしのばれています。また、ふもとには多久神社(風土記の多久社)があり、その主祭神は「多伎都比古命」で、今日に大船山との深い関わりを伝えています。

大船山は、尾根が南北に伸びており、南側から見るとお椀を伏せたような形をしています。登山口は、宍道湖北部広域農道沿いの「神名樋山 大船山」の標識から大船山南東側の脇道を少し進んだところで、「大船山登山口」の標識があります。山頂に向かう登山道は初め竹林で、途中にわずかな眺望がある



# 森林へ行こう! vol. 34

## ほし かみ やま 星 上 山

●松江市／標高:458.0m

星上山の山名は、「星を信仰した神聖な場所」という意味で、山頂近くには星の伝説を伝える星上寺や、星の神様を奉る那富乃夜神社があります。

出雲国風土記には、このあたりに高野山と呼ばれる山があると記されていますが、この星上山なのか、近くの京羅木山(vol. 9)なのか、定かではありません。しかし、星上山が当ても出雲国庁などの出雲国の中心地周辺から身近に望まれる山であったことは確かです。

星上山には、今日、山頂近くにバンガローやテントサイトが整備された星上山スターパークがあり、そこまで車で行くことができます。このため、山頂へは簡単に行くことができます。



出雲国分寺跡付近から望む星上山



登山口近くの仁王門

一方、一般的な登山道の八雲別所コースは、星上寺や那富乃夜神社への参道で、途中には祠や一丁地蔵などの石仏があり、星上山が古くから信仰の場所となっていたことを伝えています。

登山口は、安部栄四郎記念館近くで、駐車場や歩道橋が整備されています。歩道橋を逆方向に戻ると松江市指定文化財となっている江戸時代の仁王門があります。

登山道は、はじめ竹林に囲まれ、登っていくとやがて広葉樹の森になり、途中に西日本の低山には珍しいブナの巨木も見られます。そして、星上寺と那富乃夜神社を過ぎると、その先のこんもりとした森の中に山頂があります。この山頂からの眺望は良くありませんが、山頂北側の展望台からは中海や島根半島などを見渡すことができます。【所要時間:山頂まで約50分、登山適期:通年】星上山は、往時の信仰から、今日の身近なアウトドアまで、時空を超えて人々に親しまれ続ける霊山です。



●出雲市／標高:536.3m

出雲北山地域は、弥山〔vol. 19〕や旅伏山〔vol. 29〕に紹介したとおり国引き神話において、「八穂米支豆支の御埼」と呼ばれ、朝鮮半島の新羅の岬を引き寄せた土地と記されています。

鼻高山は、山岳ルーツ大辞典によれば、「鼻が先端のことで、尾根の先端に特徴があることによる山名」とあり、まさに出雲北山の中央に位置する最高峰であることを示す山名です。また、鼻高山は島根半島の最高峰で、出雲平野のみならず半島を見渡す好眺望の頂きです。

出雲北山には、出雲大社裏の弥山から鼻高山を経て、東端の旅伏山に至る縦走路が、登山者に親しまれており、山々をつなぐそれぞれの谷には、かつて南北の生活をつないだ峠があって、今日、登山道として利用できる山道がたくさん張り巡らされています。鼻高山には、一畑電車高浜駅

北側の客垣谷から鳶岩、矢尾峠を経て縦走路に至り山頂に向かうコースが一般的ですが、



縦走路と交わる矢尾峠

神門谷から山腹の来坂神社を経由して山頂直下に至り山頂に向かうコースや、西林木の伊努谷から伊努谷峠を経て縦走路に至り山頂に向かうコース、北側の鱒淵寺から矢尾峠や伊努谷峠を経由するコース等もあります。更に、南側山腹の標高約50メートルあたりには、美保関と出雲大社を結ぶ古道の一部が復元され天平古道といわれる山道も横切っています。

出雲北山の南側に並走する一畑電車や国道431号線なども利用し、登山口と下山口を自由に選択して、多彩な組み合わせを楽しむことができます。

【所要時間: 約100分(客垣谷コース)、登山適期: 通年】鼻高山は、出雲北山の盟主として登山者に人気の秀峰です。



東側の縦走路から望む鼻高山



# 森林へ行こう! vol. 36

## たいまさん 大麻山

●浜田市／標高:599m

大麻山は、明治期の廃仏毀釈まで、修験道の靈山として知られていました。平安前期までは「双子山」と呼ばれていましたが、仁和4年(888年)に、阿波国の大麻彦命のご神託により、山頂に大麻山神社が創建され、山名も大麻山に改められました。その後、神宮寺である尊勝寺が創建されて、神仏習合の社となったとのことです。

大麻山には、この大麻彦命にまつわる伝説があります。命がその昔、阿波国から馬で海を渡り、舟で大麻山に登るため、馬から降りたところが折居と呼ばれ、その際に投げた馬の鞍が近くの鞍島になったと伝えられています。また、大麻山に命が率いてきた忌部族とふもとの小野族との石合戦などの伝説も伝えられています。



浜田市三隅町から望む大麻山



山頂から望む海岸線

大麻山は、幕末の第二次長州征伐の「大麻山の戦い」(1866年)の古戦場としても知られています。大麻山に陣を置いた幕府方の浜田藩は、大村益次郎の指揮する長州藩の攻撃で陥落、敗れた浜田藩松平家はその後浜田城を自焼退城することになりました。

大麻山の中腹には、日本棚田百選に選ばれた「室谷の棚田」もあります。ここは、江戸時代以前に砂鉄を採取した「かなな流し」の跡を、水田としたのが始まりと言われており、約千枚の水田が美しい景観を形作っています。

大麻山には、現在、山頂までの車道もありますが、県道一の瀬折居線沿いの「史跡大麻山道中石」の石碑のあるところが登山口です。中国自然歩道になっている登山道は、車道と交わりながら大麻山神社に至ります。神社の後のスギ木立を登ると大麻山頂上です。広い山頂には、テレビ局のアンテナが建ち並んでいます。展望台からは間近に迫る日本海や中国山地の山々など眺望は圧巻です。【所要時間:登り約70分、登山適期:通年】 大麻山は、島根県西部の歴史的な要衝にそびえる靈山です。

